

課題

CAN-DOリストの活用について、本市において以下の課題があった。

- ①CAN-DOリストが見つらかったり、使いづらいために、実際の活用が進んでいない。→目標を設定した後の活用を進める必要がある。
- ②児童・生徒との共有が進んでいない。
- ③小学校から中学校への接続のための活用ができていない。

具体的な取組と工夫



■各領域の達成目標を確認したうえで、単元末に実施する言語活動にあわせて「記録に残す評価」を明確にする。
各領域の達成目標はプルダウンメニューで「記録に残す評価」だけを示すことができるようにしている。
■年間指導計画と一体化したリストであるため、「記録に残す評価」について年間通じて領域に偏りなく設定しているかを確認できる。

■「記録に残す評価」を明確にすることで、振り返りシートの内容を明確にしたり、児童・生徒と目標を共有したりすることにつながる。
■各単元で実施する言語活動(パフォーマンステストを含む)と評価が明確になることで、指導と評価の一体化につながる。

単元末の言語活動例を示し、活動例に応じて「記録に残す評価」を設定している。

■小中学校7年間のリストになっているため、小中学校それぞれの達成目標を確認できる。それぞれの校種で目標を確認したうえで、中学校区ごとに、リストを基に外国語の授業について連携を進める。
■リストの見直しを行い、各学校の実態に応じたものに改善する。

学習達成目標 (can-doリスト形式)

聞くこと	読むこと	話すこと(やりとり)	話すこと(発表)	書くこと	単元末の言語活動例
話し手が経験したことについて話される内容の概要を捉えることができる。			思い出や経験したこと、気持ちなど簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。		★春休みの思い出について、行ったところや自分が体験したことについて発表する。
	旅行について報告する文章を読んで概要を捉えることができる。	自分の予定について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。		簡単な語句や文を用いて情報を整理しながら、名所を紹介する文章を書くことができる。	★旅行の計画を立て、質問をしたり、答えたりする。

成果

■各小中学校において、学習到達目標の公表及び目標の達成状況の把握が進んでいる。

課題及び改善案

- 「記録に残す評価」にフォーカスするリストであるが、「記録に残す評価」は行わないが、目標に向けて指導を行うことの重要性を理解したうえでの活用が必要⇒研修会の実施
- 小学校から中学校へ、よりスムーズな接続のための活用が必要⇒中学校区単位のリストの見直し・改善の実施